

文●武井寛史 写真●森山良雄
 text by TAKEI Hirofumi
 photos by MORIYAMA Yoshio
 協力●G-Tech Japan <http://www.g-techracing.jp/>
 スーパー耐久アシエーション
<http://www.supertakyu.com/>
 企画・制作●企画集団<百選 movies>

G-Techレーシング スーパー耐久第1戦に挑む

RACING SCENE

スーパー耐久に参戦するために
 専用開発されたスペシャルマシン、
 Sportster GT/Rを擁するG-tech RACINGが
 シリーズ第1戦となる
 ツインリンクもてぎに登場。



G-Techの社長、ギヤセル氏も自らステアリングを握りレースにも出場。日本人ドライバーはフォーミュラカーで海外レースの経験が豊富な大瀬賢治と様々なカテゴリーでレース経験豊富なベテランドライバーの武井寛史。



» G-Tech Sportster GT/R

G-Tech Racing 応援ツアー参加者募集!

G-Techでは、7月25～26日(土～日) G-Tech Racing応援ツアーへの参加者を募集中。ツアーはG-Tech Racingが参加しているレースの見どころとG-Techの魅力を知って頂くツアーアトラクションで、パドックはもちろんチームピットにも入れる特別なツアー内容です。詳しくはG-Techのホームページにて! そのツアーに5組10名様をご招待されるとのこと。ご応募を希望の方もG-Techのホームページをご覧ください。
 ※現地までの交通費は各自のご負担となります。



ギヤセル氏はマシンのメンテナンスも率先で行う。ドライバーとメカニックを両立することでマシン開発のスピードが早く進むのもメリットだ。作業は素早くとても丁寧だ。



Sportster GT/Rは日本国内のレース用に製作された。スーパー耐久シリーズでは特認車両として申請され受理された特別なマシンである。今後、ロードゴーイングモデルのGT/Rを発売する予定。

G-Tech Racingインサイドレポート



<http://www.g-techracing.jp/movie/>
 G-Tech Racingのピットで収録した「ツインリンクもてぎ開幕戦」の様子が閲覧できるサイトです。緊迫するピットから中継したインサイドレポートを是非チェックしてみてください。

ドイツのチューニングメーカー「G-Tech」が参戦するスーパー耐久シリーズの開幕戦が、栃木県・ツインリンクもてぎで開催された。スーパー耐久は排気量や改造範囲でクラス分けがされており、6クラス45チームで耐久レースが行われる。「G-Tech」がエントリーするのは、「一番の激戦区である」ST-4クラス。トヨタ86も多数参戦し、最も注目されているクラスだ。マシンはスポーツスターGT/Rと名付けられた「G-Tech」のレース用モデル。マシンが日本に到着したのはレースの3週間前で、時間的に十分なテストを行えないままの初陣となった。

もてぎを全開で走行するのは、レースウィークのフリープラクティスが初めてだったが、「G-Tech」が製作したレースカーの素性が良いこともあり、予定していたメニューを順調にこなしていた。だが、レースはそう甘くはない。フリープラクティスでクラッチとミッションにトラブルが発生。約1時間30分程度でスペアミッションに寄せ換えを完了。本来、ドグミッションを搭載しているのだが、スペアミッションはノーマル。もてぎ用に計算し、セットアップしてきたギア比とは異なるので、ドライコンディションでは本来のポテンシャルを発揮できず、予選グリッドは14番手となった。

翌日の決勝は大雨。ウェットで走るのこの日が初めてだったが、決勝前のフリー走行ではST-4クラスで2番手のタイムを計測。同じクラスに参加しているライバルチームを驚かせた。ドライセットではまだまだ熟成が必要だったが、ウェットコンディションでパッチリのセッティングを得ることができた。

激しい雨の中、5時間に及ぶ耐久レースがスタート。決勝前にエンジンから異音が発生するトラブルが発生してしまい、ピットスタートとなってしまうが、順調にラップを重ねクラス6番手まで浮上。あと1時間20分程でゴールというところで、またもやクラッチ系のトラブルでストップ。残念ながらリタイヤとなってしまう。とはいえずスポーツスターGT/Rのポテンシャルは十分にアピールできたのではないだろうか。当然、このレースで得た課題を元に開発を進めて行く。次戦は真夏の富士7時間に及ぶ耐久レースだ。「G-Tech」の活躍に期待したい。



©

©